

**CISS (Civil Instructor Support System) は、
子どものネット利用問題に直面する学校・生徒指導教師や
PTAなど市民によるネット見守り・指導活動を支援するシステムです。**

※CISS は社会技術研究開発センター（科学技術振興機構）からの受託プロジェクトです。

1. CISS 開発の意義

青少年メディア研究協会（AMS）では、これまでの子どものネット遊び調査や市民インストラクターの養成といった、子どものインターネット利用問題解決にむけての取り組みから、CISS という情報通信システムの開発と運用に着手しました。

CISS 開発の目的は、地域で啓発活動にあたってきた市民インストラクターの活動を活発化し、学校現場で問題に直面している教師の負担を減らし、インターネット時代の学校のパワーアップを実現することです。すなわち CISS は、教員や保護者の能力＝子どものインターネット利用の見守り、注意、指導ができるペアレンタル コントロール能力を高めていくことを目的としています。

CISS を利用することにより、地域内および地域間での関係者の情報共有も可能となります。たとえば市民インストラクターと教育委員会が問題について「知る・知らせる」ことによって問題解決にむけた連携を促す、という効果も期待できます。

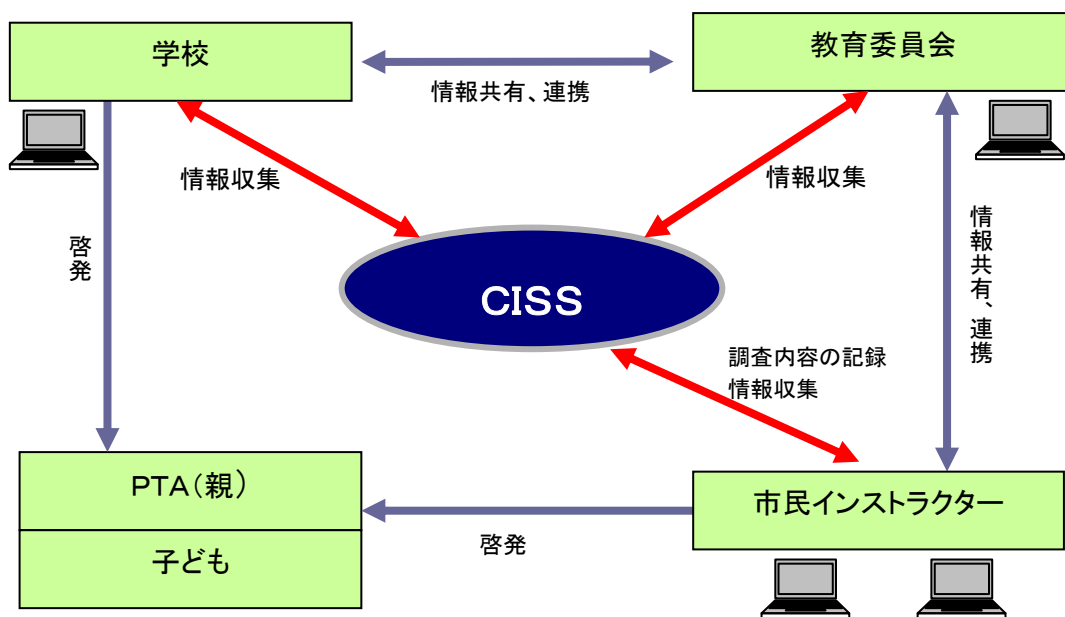


図 1 : CISS 利用イメージ

2. CISSの機能

具体的には、CISS は以下のような機能を今後段階的に搭載したうえで、市民インストラクターや教育委員会、学校における調査、啓発、トラブル対応などの活動に役立てていただく予定です。

- ・ 裏サイト、プロフ、SNS 等の子どものネット遊び場に関する調査記録のデータベース構築
- ・ 学校、家庭で起こった子どものインターネット利用を要因とするトラブル事例および対応策に関するデータベース構築
- ・ 市民インストラクターや教育関係者が意見交換できる SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）サイトの開設
- ・ 子どものネット遊び場サイトの評価
- ・ 啓発支援情報、コンテンツの開発・提供
- ・ データベースの情報にもとづく各種統計情報の提供
- ・ 各地の教員や市民インストラクターの情報交換ができるインターネット会議、放送支援

上記の機能は AMS が各地の市民インストラクターをはじめ教育委員会、教師の方々へのヒアリング過程で出てきたニーズをもとに設計されます。問題解決に向けての活動を発展させていくためにも、CISS をより有効なツールとして機能させていくためにも、今後も CISS 利用者とのヒアリングを続け、改良をすすめることが求められます。

とくに CISS の主要な機能の一つである子どものネット遊び場での発信記録のデータベースですが、その利用者は、下記図のような 3 種類（「啓発」するインストラクター、「調査」するインストラクター、教師）を想定しています。

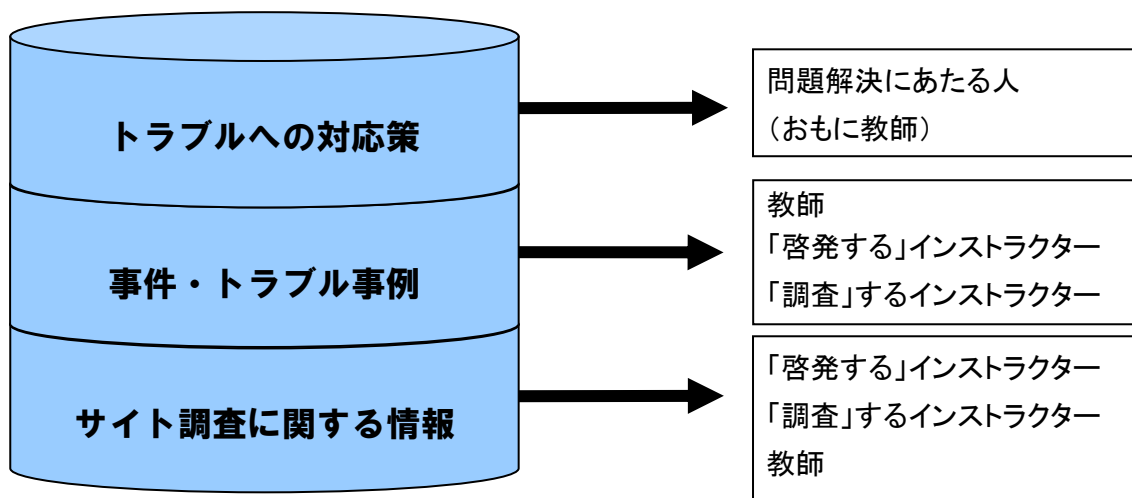


図 2 : CISS データベースと想定される利用者

3. CISS 開発計画

CISS の開発は、今後 4 年間にわたり段階的に行なわれます。

今年度上半期の第一次 CISS（平成 21 年 4 月～7 月）では、裏サイトおよびプロフに関する調査の記録とデータベースの基礎的部分ができあがる予定です。AMS では、過去に「全国学校裏サイト調査」を実施しましたが、そこで用いられた裏サイト調査形式をもとに過去のデータを更新しており、この実績を CISS プロジェクトで活用します。

利用者は、CISS の Web サイトにアクセスし（当面は専用端末からのアクセスを想定）、これまで蓄積していた（裏サイト、プロフに関する）調査内容、新たに発見したサイトの発信について登録したり、閲覧したりすることができます。第一次 CISS の利用では、利用についての一連の操作に慣熟していくとともに、地域におけるネット遊びのデータベースを構築していくというのが中心的な利用の仕方になります。利用者とのヒアリングを重ねながら、より使いやすいデータベースとして改良をしていくこととなります。

第二次以降の CISS では、システムのオープン化をめざし、来年度末にはオープン・システムの実験も開始する予定です。CISS は基本的に、問題解決に関わる人たちが積極的に意見交換、情報共有できる機能を搭載し、連携の実現をはかります。

また、市民による啓発活動を活発化させるため、啓発支援情報およびコンテンツの配信機能を強化してまいります。